

2024 . Feb .

vo1. 2

 奈良県立医科大学附属病院  
Nara Medical University Hospital

地域連携・入退院支援センター 広報誌

# MER

Medical  
Engagement  
Relationship

だより



「第5回連携登録医のつどい」の開催風景です！



奈良医大イメージキャラクター  
しょうとくた医師くん

- 病院長挨拶 … 3
- 教授就任挨拶 … 4
- 奈良医大附属病院インフォメーション … 9
- 第5回連携登録医のつどい開催報告 … 10
- 地域連携・入退院支援センターからのお知らせ … 12

## 理念

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

## 方針

### 1 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

奈良県内唯一の特定機能病院として高度医療・先端医療を推進します。

また高度救命救急センターに加え、E R救急の整備等により救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、奈良県民を守り地域の安心の確保に貢献します。

### 2 奈良県内基幹病院としての機能の充実

5疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）をはじめとするあらゆる疾患に着実に対応するとともに、患者安全の取組を推進し、奈良県内基幹病院としての役割を果たしていきます。

### 3 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進

地域医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支えます。

### 4 各領域の担い手となる医療人の育成

附属病院における卒後教育を通じて、超高齢社会に対応する地域包括ケアシステムをはじめ各領域の担い手となる患者と心が通い合う医療人を育成し、地域医療の向上に貢献します。

## 行動指針

- 病状や治療方針を分かりやすく説明し、安全で質の高い医療を提供します。
- 高度で先進的な医療を提供します。
- 医の倫理にしたがい、患者さんの意思と権利を尊重し、心の通い合う医療を提供します。
- 県における基幹病院として、地域の医療機関との連携を図り地域医療に貢献します。
- 臨床教育を充実し、人間味豊かで県民から信頼される優秀な医療人を育成します。

# 病院長挨拶

奈良県立医科大学附属病院

院長 吉川 公彦



新春を迎えお祝い申し上げます。

まず、2024年1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。当院からも、DMAT（災害医療支援チーム）2隊、赤十字救護班1隊の計3隊17名の職員が現地に派遣され、救護活動にあたっています。一日も早い災害からの復興を祈念申し上げます。

さて、日頃は奈良医大附属病院の運営にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

当院では、2023年4月より患者さんの外来受診・入院・退院・転院・在宅医療をシームレスに支援する目的でこれまでの「地域医療連携室」と「入退院支援センター」を合併して「地域医療連携・入退院支援センター」と改名し、さらに新設の「在宅医療支援センター」を合わせて、「入退院等支援部」と組織の再編成を行いました。

また従来の「地域医療連携室だより」を「MER(medical engagement rela-

tionship)だより」として昨年創刊号を発刊し、本誌が第2号となります。MERだよりでは当院における初診紹介、逆紹介、退院調整、返書管理の実績、講演会開催予定等に関する最新情報や新任の先生のご紹介、各診療科、部門の取り組みを掲載し、地域医療連携に携わる皆様との、より一層の信頼関係の構築と円滑な連携を推進していきたいと思います。

今後も、当院は奈良県唯一の特定機能病院として高度・先進医療を行うとともに、地域の基幹病院として、紹介受診重点医療機関を標榜し、紹介率・逆紹介率の向上、連携登録医のつどい・地域医療連携懇話会等を通じた病診連携・病病連携の強化、地域医療機関との機能分担、緊密連携を推進し、地域医療構想の実現に取り組んで参りますので、引き続きご理解とご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



# 教授就任 挨拶

循環器内科

教授 彦惣 俊吾



2023年7月1日付で循環器内科学教室教授を拝命いたしました彦惣 俊吾と申します。卒業大学は大阪大学で、その後も主に大阪府内で仕事をしておりましたが、高校生活は奈良県で過ごしました。このたびご縁があって奈良県の医療に携わらせていただく機会をいただきました。奈良県の循環器内科診療の充実と発展に貢献し、地域の先生方のご期待に応える医療を行いたいと考えております。

当科は2018年に第一内科から臓器別再編により循環器内科学教室となり、奈良県の循環器診療の最後の砦として診療を進めてまいりました。循環器疾患には、心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症など様々な疾患がありますが、いずれの疾患も患者数が増加しており、その対応が急務となっております。前任の斎藤 能彦先生は「断らない医療」を掲げられ、患者数が増加する中でも、紹介、救急の全てに責任をもって引き受ける診療を進めてこられました。私もその流れを引き継ぎ、医局員ともども、奈良県、特に中和・南和地区の循環器診療の最終ディフェンスラインとしての役割を全力で果たしてまいります。同時に、循環器疾患の治療法は様々な面で近年大きく進歩しております。例えば心不全では

30年間以上同じ薬剤が標準治療薬として使用されてきましたが、予後を改善する新たな複数の薬剤がこの5年間で新たに上市され、治療体系が大きく変わってきております。不整脈に関してもカテーテルによる治療がメインとなってきておりますし、弁膜症については少し前からカテーテルでの治療が広く行われるようになっており、外科的手術以外でも治療できる選択肢が増えております。当科としては、このような新しい治療を積極的に導入し、心臓血管外科の先生との密接な連携、協力のもとで個々の患者様に最適な治療法を選択することにより、奈良県の患者様が県内で安心して最高レベルの循環器医療を受けていただけるように尽力してまいります。

幸いにして、当科のスタッフには人柄、実力ともに申し分ない優秀な医師がそろっております。私の大きな使命の一つは、さらに多くの優秀な循環器内科医師を育成することだと考えております。奈良県唯一の大学医学部循環器内科教室として、診療、人材育成、研究に取り組み、地域の先生方のご期待に応えてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 教授就任 挨拶

脳神経外科

教授 中川 一郎



この度、2023年11月16日付で脳神経外科学講座教授に就任いたしましたのでご挨拶申し上げます。当教室は1960年に堀浩初代教授が外科学第二講座として開講いたしました。柿 壽右名誉教授、中瀬 裕之前教授のご功績により、脳血管障害や脳腫瘍、てんかんなどの機能的外科や脊椎脊髄外科、小児脳神経外科や頭部外傷等、各分野のエキスパートが診療を行い、全国でも屈指の手術件数を誇る大学病院脳神経外科として機能しております。

脳卒中診療に関しては既に奈良県立医科大学脳卒中センターが開設され現在一次脳卒中センターコア施設として機能していますが、さらなるスムーズな脳卒中患者の受け入れとタイムリーかつ適切な急性期医療を提供できるよう地域医療機関や救急隊との連携を密にして患者情報や画像情報の共有などの病前連携をさらに強化し、奈良県の包括的脳卒中センターとしての機能が果たせるような体制を整えていきたいと考えております。また、奈良県の基幹病院としてカテーテルを用いた最先端の低侵襲治療である脳血管内治療をさらに集約化し、超

高齢化時代に対応した低侵襲治療を常時提供できる体制を強化したいと考えております。

脳腫瘍に関しては、奈良県立医科大学附属病院は現在がん拠点病院およびがんゲノム医療拠点病院であり、脳神経外科としては覚醒下手術をはじめ術中ナビゲーションシステムや術中神経モニタリングなどを駆使した脳腫瘍の切除と機能温存の両立を目指した先進的な手術技術の提供を行っております。そして悪性脳腫瘍においては院内各科と連携し、定位的放射線治療の充実、さらには遺伝子パネル検査やゲノム医療の推進にも注力していきたいと考えております。

脳神経外科では、各分野においてエキスパートが最先端の診療を行っており、また次世代へ向けての人材育成を推し進めることで奈良県の地域医療に継続的に貢献していきたいと考えております。是非多くの患者さんをご紹介いただければと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 教授就任 挨拶

精神科

教授 岡田 俊



2023年11月1日付で精神医学講座教授を拝命いたしました岡田 俊と申します。

私は大阪府に生まれ、中学、高校時代を奈良県の東大寺学園で学びました。1997年に京都大学を卒業した後、同医学部附属病院ならびに関連病院の勤務を経て、京都大学ならびに名古屋大学でそれぞれ9年、国立精神・神経医療研究センターで3年勤務しました。その間、精神科救急、依存症治療、精神科デイケア、児童精神科医療、周産期メンタルヘルスといった精神科の幅広い臨床領域に携わって参りました。現在は、主として児童精神科臨床および発達障害を専門としております。

奈良県立医科大学精神医学講座は、1949年に金子 仁郎教授のもとに誕生し、以後、大沢 安秀教授、有岡 巖教授、井川 玄朗教授、1996年から2021年までの長きにわたり岸本 年史教授のもとで発展して参りました。2006年からは、新病棟の精神医療センターが稼動して現在に至っております。児童～老年期までのライフステージを扱い、急性期からリハビリテーションまで一貫し

た治療を提供できるのが特徴です。

奈良県立医科大学精神医学講座は、特定機能病院として大学病院でしか提供できない高度な精神科医療や他科との連携のもとリエゾン・コンサルテーション医療を提供することに加え、県下の医療機関や福祉などの諸機関と連携しながら精神科医療の中核的役割を担うという多様な役割を求められております。また、他方では、医師の働き方改革のうねりのなかで、時代に即した医療環境を整備することも併せて求められております。

「No Health with Mental Health」といわれておりますが、一人一人のウェルビーイングを実現していくためには、心身両面の医療や健康づくり、地域における暮らしの支えの両面が求められます。何より明らかなことは当学精神医療センターのみで完結する医療はない、ということでありましょう。そのためには、地域の医療機関の先生方との協働が不可欠です。何卒ご指導、ご支援をお願い申し上げます。



# 教授就任 挨拶

放射線治療科

教授 礒橋 文明



2023年7月1日付で放射線腫瘍医学教室教授を拝命しました礒橋 文明（いそはし ふみあき）と申します。私は2000年に福井医科大学（現・福井大学医学部）を卒業後、大阪大学放射線治療学教室に所属し、放射線腫瘍学の臨床・教育・研究を行ってまいりました。奈良県立医科大学放射線腫瘍医学教室は、放射線治療を専門にする教室としては大変長い歴史があり、伝統ある教室を担当する重責に身の引き締まる思いです。

私が放射線治療医になって以降、放射線治療は照射機器・治療計画装置の進歩により目覚ましい発展を遂げています。高精度放射線治療により、腫瘍に対しての線量集中、正常臓器に対しての線量低減化が実現し、治療成績が各段に向上しました。奈良県立医科大学附属病院においても、最新・最先端の放射線治療が可能です。高精度の放射線治療機器であるリニアック3台と、子宮がん、前立腺がんなどの局所治療用の小線源治療装置1式があり、小線源治療室

内には同室設置のCTと線源の位置確認ができる透視装置も完備されています。また、前立腺がんの永久挿入小線源治療装置1式も稼働しています。放射線同位元素を体内に投与する核医学治療も行っています。

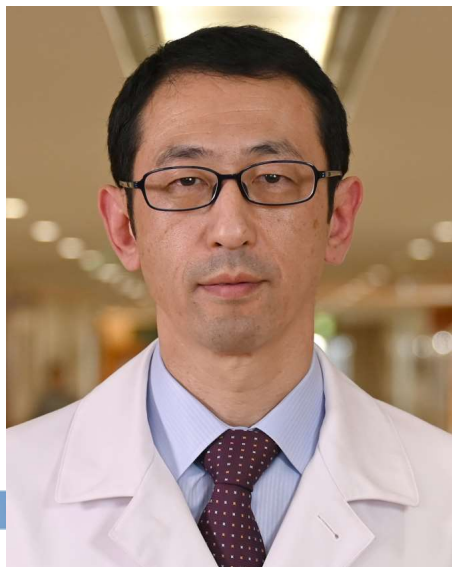
超高齢化社会を迎える日本においては、がんの罹患者数は増加することが予想されます。侵襲が少ない、高齢者にも適応可能な放射線治療の需要はますます高まってくると考えられますが、放射線治療専門医の数はまだまだ不足しています。私は、奈良県下に1人でも多くの放射線治療専門医を輩出するとともに、奈良地域での地域医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、質の高い放射線治療を地域に提供することが第一の使命だと考えております。

まだまだ規模の小さい弱小な教室ではございますが、今後とも地域医療に貢献していく所存ですので、ご指導・ご支援よろしくお願い致します。

# 教授就任 挨拶

病理診断科

教授 吉澤 明彦



2023年7月1日付けで本学病理診断学講座教授および病理部部長を拝命いたしました吉澤 明彦と申します。信州うまれの信州育ち、1997年に信州大学を卒業後は母校にて病理専門医、細胞診専門医、検査専門医を取得したのち京都大学に異動。専門となります呼吸器病理、特に肺腫瘍の臨床病理学的研究を行ってまいりました。このたびご縁をいただき本学にて働かせていただくことになり、ここにご挨拶をさせていただきたいと思います。

私の本学におけます目標の一つが病理医の育成にあります。病理医不足は感じいただいているかとは思いますが、県内で病院に専門医がいるのは9施設のみ、臨床研修指定病院でも不在の病院があり、また高齢化も進んでいます(2024年1月時点)。さらに病理医のいない病院・クリニックの病理検体の作成は検査センター(衛生検査所)に依頼されることが多いかと思いますが、この1月で県内での病理標本作製できるセンターはなくなりました。奈良は大阪、京都に近いこともありますが、県を超えて

検体が出て行き、顔の見えない病理医が報告をしているのは診断までの時間を含め大きな問題であると考えています。

解決法を二つ考えています。一つは冒頭にあげた病理医を増やすこと、そしてもう一つは、少ない病理医でも効率よく診断を行うことです。前者には時間がかかりますが、リクルートと育成に尽力してまいりたいと思っています。後者として私は「奈良県病理診断ネットワーク」を創設してまいりたいと思っています。昨今のICT技術を用いて、クラウド上のプラットフォームに病理医と病理医、病理医と臨床医をつなぐネットワークを構築してまいります。私はこれまでも他府県で広げてまいりましたが、そういった経験を活かし、来るAI時代も見据え、関連の先生方と協力し、患者さんに迅速に、かつ正確な病理診断を届ける仕組み作りを行って参りたいと思います。

是非とも、ご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



31診療科  
10部  
18センター  
2室

入院延患者数  
(年間)  
234,855名

病床数  
992床

県内唯一の  
特定機能  
病院

外来延患者数  
(年間)  
565,629名

奈良医大附属病院  
ってどんな病院？

当院では、病病連携や病診連携を積極的に進め、紹介元医療機関への迅速な経過報告や、急性期治療後の紹介元医療機関への逆紹介等、地域医療機関との連携強化に日々努めているところです。

また、外来患者診療においては、待ち時間の緩和

や初診時の手続きの簡略化、初回受診時から専門医の診察へつなぐため等の観点から、緊急の場合を除き、**原則予約制**としております。

初診のご予約は以下3つの方法により承っております。状況に合わせてご活用ください。

専門性の高い内容なら  
**FAX予約**  
予約専用FAX:  
**0744-23-9901**  
受付:月～金 8:30～16:00  
(祝日・12/29～1/3除く)  
※FAXは24時間受信可能ですが、時間外のお申込みにつきましては、翌日(休日の場合は休日明け)の受付となりますので、ご了承ください。

その場で予約を取得するなら  
**オンライン予約**  
「C@RNA Connect」  
**※事前登録が必要です**  
24時間、365日予約可能  
予約枠の空き確認も可能

患者さんご本人に  
日程調整をお願いするなら  
患者さんによる  
直接電話予約  
専用ダイヤルあり  
連携登録医の  
紹介患者さん限定

大切な紹介患者さんに安心して受診していただくため、初診予約の取得にご協力いただきますようお願いいたします。



開催報告

## 第5回 連携登録医のつどい を開催しました

### 開催概要

■日時 2023年11月30日（木）  
14：00～15：30

■会場 奈良県立医科大学  
厳樞会館3F 大ホール

#### 【第1部】

講演Ⅰ「生老病死に寄り添う病診連携  
～映画『明日香に生きる』から～」  
明日香村国民健康保険診療所  
所長 武田 以知郎

講演Ⅱ「心不全薬物治療のup to date」  
奈良医大 循環器内科  
教授 彦惣 俊吾

#### 【第2部】 情報交換会

「連携登録医のつどい」は、連携登録医として当院との医療連携にご尽力くださっている地域の先生方と当院医師との「顔の見える関係性」を構築するため、毎年開催しているイベントです。

第5回目となる今回は、地域医療連携の輪をさらに広げるべく、初めて連携登録医以外の地域医療機関の先生方へもイベント周知を行い、併せて昨年度のアンケートでご要望の多かった、WEB配信を併用したハイブリッド開催を実施いたしました。

当日はWEBを含め総勢50名を超える多数の参加があり、登録医外からご参加くださった先生方からはその後連携登録医制度への申請をいただくなど、今後の地域医療につながる機会を持つことができました。



今回のつどいでは、当院連携登録医であり先日「赤ひげ大賞」を受賞された明日香村国民健康保険診療所の武田 以知郎先生から在宅医療と病診連携についてのご講演を、また、昨年7月より当院循環器内科教授に就任された彦惣 俊吾先生からは最新の心不全治療についてのご講演をいただきました。

聴講した連携登録医や当院医師からも関連な意見交換が行われ、非常に有意義な会となりました。

講演会終了後の第2部は情報交流会として、当院の医師からそれぞれの診療科からのご挨拶をさせていただきました。



明日香村  
国民健康保険診療所  
所長 武田 以知郎



奈良医大  
循環器内科  
教授 彦惣 俊吾

## 当日の 講演者

### 「第5回 連携登録医のつどい」

参加者アンケート集計結果 はこちらから→→

今回も多数のご参加を賜り、ありがとうございました。「連携登録医のつどい」は次年度も開催を予定しております。開催日が決定し次第ホームページにてお知らせいたしますので、続報をお待ちください！



## 連携登録医の登録はお済みですか？

### 連携登録医にご登録いただくと・・・

「連携登録医制度」は、地域の医療機関と当院が相互に協力して、患者のニーズに応えた一貫性のある医療を提供するため、より緊密な医療連携を図る体制を整備することを目的としています。

患者の紹介・逆紹介などで当院と連携を図り協力体制をとっていただける地域の医師・歯科医師の先生方を「連携登録医」としています。

- ・ 地域連携、病診連携、日常の診療に関する情報交換の機会となる「連携登録医のつどい」にご参加いただけます
- ・ ご紹介いただいた患者さんのカルテ閲覧や入院中の患者面談等、患者さんの診療情報を共有することができます
- ・ 定期的なメールマガジン発信により奈良医大の最新情報や各科、各教室の学術集会の参加案内などをいち早くお届けします
- ・ 登録医紹介患者さんに限り専用電話による直接予約が利用できます
- ・ 患者さんから日常のかかりつけ医について相談があった際は、連携登録医医療機関を優先的に患者さんに案内、紹介いたします

この機会にぜひご登録をお願いいたします！



## 広報誌 誌名変更のお知らせ



前号でもお知らせしたとおり、令和5年4月1日より当院の地域医療連携室と入退院支援センターが統合され、現在は「地域連携・入退院支援センター」として、患者さんの受け入れから地域へお返しするまでを一貫してサポートしております。

この統合にともない、従前から「地域医療連携室だより」としてお届けしていた広報誌を、新たに「MERだより」とし

て発行することとなりました。

「MERだより」のMは“medical”（医療）、Eは“engagement”（愛着、約束など）、Rは“relationship”（心のつながり）をそれぞれ意味しています。県下の医療機関の皆さまと良好な関係を構築し、愛着を持って深いかかわりができるようにお願い命名いたしました。

今後とも、地域連携・入退院支援センターをよろしくお願いいたします。

編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域連携・入退院支援センター

〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL (代表) 0744-22-3051/ (直通) 0744-29-8022

FAX 0744-23-9923 URL <https://hospital.naramed-u.ac.jp/>

発行 2024年2月